

令和3年度大学の世界展開力強化事業プログラム委員会（第2回）議事概要

1. 日 時 令和3年10月25日（月）10:00～12:00

2. 開催方法 Web 会議

3. 出席者 委員 芦沢委員、岩城委員、岡本委員、荻上委員、勝委員、熊谷委員、
黒田委員、杉村委員、但田委員、長尾委員、日比谷委員、渡邊委員
文部科学省 里見大臣官房審議官、岸本高等教育局主任視学官、
吉岡国際企画室専門官 ほか
事務局 遠藤大学連携課長、持田同課長代理 ほか

4. 議題及び概要

（1）令和4年度概算要求等について

文部科学省から、令和4年度概算要求等について資料1に基づき説明があった。主な意見は以下のとおり。

- ・留学生の入国制限緩和をより一層進めるべき。また、国費留学生のみならず私費留学生の入国制限緩和も進めるべき。
- ・留学生の在籍管理について周知する際、受入体制の整備や教育がより重要だということを各大学へ周知すべき。
- ・JV-Campus の展開は、日本の高等教育の価値を国際的に高め、国際的な競争力を確保していくためにも重要で、これを大学の世界展開力強化事業の来年度の枠組みにも組み込んだことは非常に評価できる。
- ・来年度の本事業におけるインド太平洋地域との展開において重要な点が2点ある。1点目は経済安全保障の観点。単に留学交流プログラムにとどまらない問題で、事業を通して幅広い議論をしていきたい。2点目は質保証。例えば単位互換制度において、日本は主に授業時間数で単位を認定する仕組みだが、海外は学習時間で認定するところが増加している。語学の単位の振替について、例えば UMAP、UCTS という単位互換でもうまく振り替えられていないようだ。単位互換制度の他国との擦り合わせが必要。
- ・単位互換制度について、UMAP の UCTS や、ASEAN+3 などで活用されている ACC などの実践例を提示して、より多くの国内の大学にも国際標準の単位互換制度を取り入れてもらえるようにしてもらいたい。
- ・本事業の新規審査について、総合大学とリベラルアーツ型の単科大学とを同じ土俵で審査するのはますます難しくなっている。ランクを分けた多様な審査をする等工夫すれば、新規の大学が応募しやすくなるのではないか。
- ・東京規約に基づいて、非伝統的な学習形態や部分的な就学などを適切に評価する観点から、単位にならないが最終的には積み上げて単位につながるようなマイクロ・クレデンシャルといわれる短期かつ細分化された学修の形態についても評価することを募集要項などで明文化してほしい。

(2) その他

文部科学省から、海外連携大学の追加について資料2に基づき報告があった。

(3) 令和3年度採択候補の承認について

なお、上記議題(3)については「「大学の世界展開力強化事業プログラム委員会」の審議内容等の取扱いについて」1. (1) ①(審査・評価に関する調査審議など公平・公正な審査に影響を及ぼすことが懸念される場合)に該当することから、内容は非公開とする。